

このままで大丈夫？

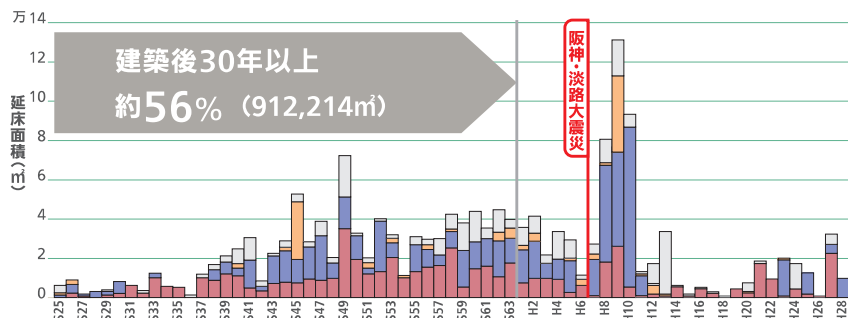
－ 公共施設の将来見通し －

人口減少や高齢化が進み、今後、市の税収の伸びを見込むことは困難です。一方で、高度経済成長期や震災直後につくられた公共施設（ハコモノ）は老朽化が進み、次々と建替えや大規模改修の時期を迎えます。このままでは維持管理や保全・整備コストの増加が避けられず、安全面だけでなく公共サービスの質の低下を招くおそれがあります。

見通し
1

公共施設の 老朽化が進みます

公共施設の大量一斉更新等



高度経済成長期に集中的に整備し、建築後30年以上経過した施設が全体の約56%を占めています。

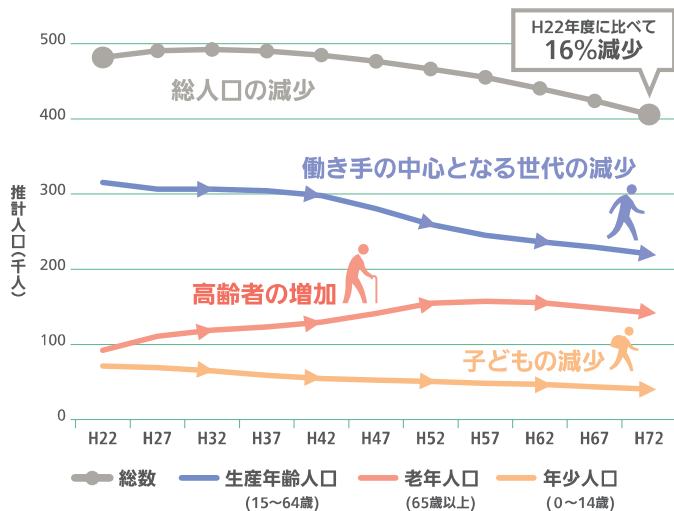
また震災直後に整備した施設も多く、これらの施設が今後一斉に建替えや大規模修繕の時期を迎えます。

見通し
2

人口が減少し、 少子高齢化が進みます

微増傾向であった本市の人口も今後は減少が進みます。平成22年度に約48.3万人だった人口は、50年後には約40.6万人となることが推計されています。

また少子高齢化に伴い、生産年齢人口も減少していきます。

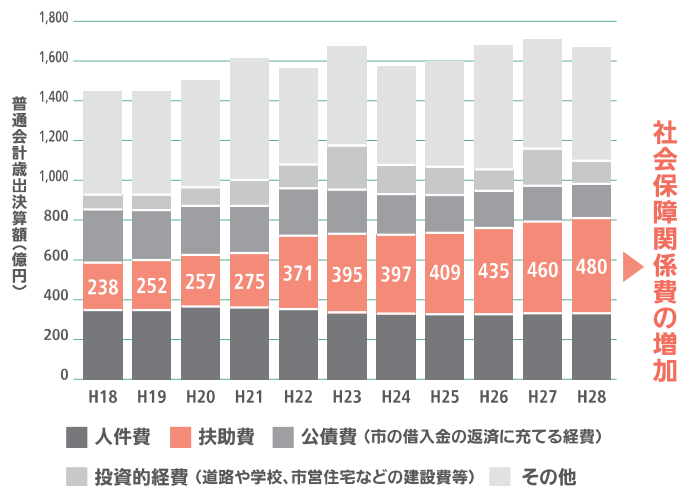


見通し
3

市税収入は増えず、 社会保障関係費は増大します

働き手の中心となる生産年齢人口が減少していく中、今後、市税の増収は期待出来ません。一方では、高齢化の進展などに伴い扶助費※が年々増加しています。今後も高齢化が進み、扶助費など社会保障関係費は一層増大していくものと見込まれます。

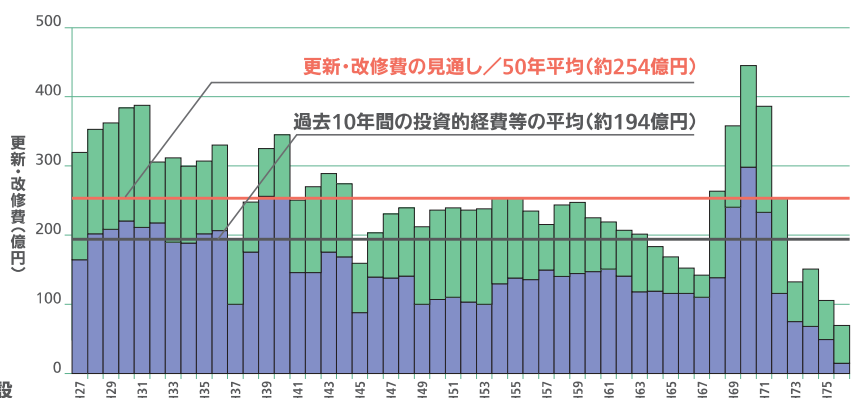
※扶助費とは、高齢者・児童・障害者・生活困窮者などの支援に要する経費



見通し
4

施設の更新・改修費用も 増大します

現在保有している施設を同じ規模で建替えあるいは改修していこうとすると、今後50年間で約1兆2,700億円、単純平均では年間約254億円の費用が見込まれます。これは、過去10年間(平成18年度～27年度)で投資的経費等に要した年間平均額約194億円の1.3倍にあたります。



これからどうしていくの？

－ 公共施設のこれからの方向性 －

現状のまま公共施設を保有し続けると、将来的に多額の財政負担（市民負担）が生じることとなり、西宮市だけでなく全国の自治体共通の課題となっています。そこで、施設の有効活用をはじめ維持管理や施設の性能・機能の最適化など、様々な観点からの公共施設マネジメントの取り組みが求められています。

公共施設マネジメントの3つの視点

1 財務

維持・更新等にかかる 費用の抑制、無駄の排除

課題

今後、老朽化した施設の更新や維持管理には多額の費用がかかりますが、使える財源に余裕はありません。

マネジメントの基本的な考え方

施設の更新・改修を行う際には必要性を十分検討し、経費を抑制することや戦略的な保全計画を立て、単年度に発生する費用の平準化を図ることが重要です。

2 品質

安全・安心・快適性、 環境保全性の確保

課題

これまでのように対症療法的な保全を繰り返していると「予期せぬ不具合の発生」「市民サービスの質の低下」「更新サイクルの短縮」を招き、結果として維持・更新等にかかる費用を増大させてしまいます。

マネジメントの基本的な考え方

計画的な保全により施設を安全・安心で快適な状態に保ちつつ、機能的・社会的な劣化の改善や環境にも配慮して施設の長寿命化を図っていく必要があります。

3 供給

施設の供給のあり方、 総量の見直し

課題

今後の財政状況を考えて、現在の施設を同じ規模で更新していくことは困難です。

マネジメントの基本的な考え方

市民に対するサービスの質をできるだけ落とさずに経費を削減できるよう、施設総量の見直しを図る必要があります。

施設総量（延床面積）の縮減【目標値】

2032年（H44年度）までに**10%以上縮減**
2062年（H74年度）までに**20%以上縮減**

これからの方向性

ハコモノ系公共施設

上手に使う 維持管理の最適化

維持管理経費の圧縮を図るとともに施設の状態を良好に保ち、利用者の快適性を高めます。

長く大事に使う 施設性能の最適化

計画的な保全により劣化の進行を遅らせ、長期にわたり安全に使用できるようにします。

とことん使う 施設機能の最適化

有効活用されていない施設は用途転用や複合化など、施設の再配置を進めます。

身の丈に合わせる 施設総量の最適化

保有施設の適正量を見極め、余剰となる施設の再編・処分等を行うことで総量の縮減を図ります。

インフラ系公共施設

安全性を優先した計画的な維持管理

インフラ系公共施設は総量の縮減や統廃合が困難なため、長寿命化や維持管理経費の削減といったライフサイクルコスト削減のための方策を講じながら、安全性を優先した計画的な維持管理を実施します。

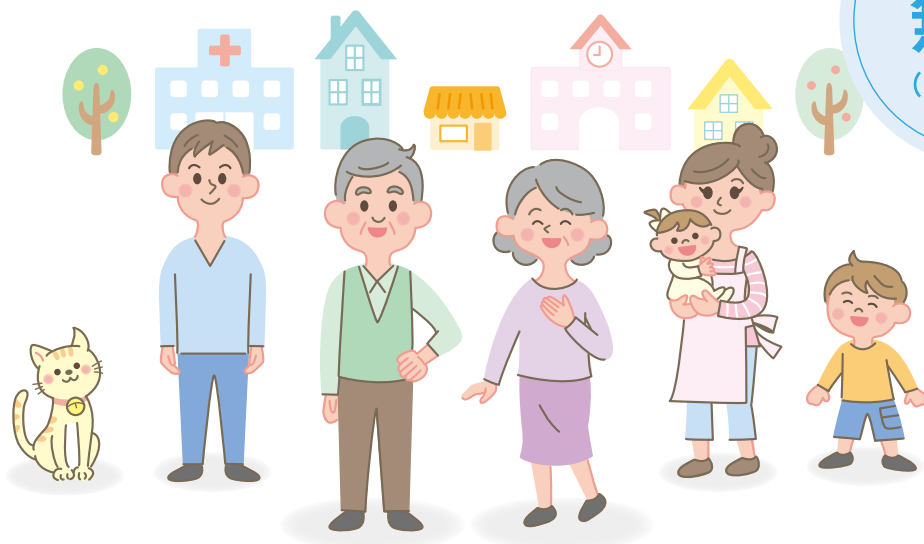
コミナティ(ファイザー社) または
COVID-19 ワクチンモデルナ(武田薬品)について

65歳以上の方(昭和32年4月1日以前に生まれた方)へ

新型コロナワクチン接種の お知らせ



接種費用
無料
(全額公費)



未来につながる新型コロナ対策が、ひとつ増えました。

新型コロナワクチンは、発症を予防し、
重症者や死亡者の発生をできる限り減らすことを目的としています。

ワクチンの種類は複数あります。あなたがどのワクチンを接種するかは、予約の際にご確認ください。

新型コロナワクチンについて皆さまに知ってほしいこと

～ワクチンに関する情報を、正確に、わかりやすくお伝えします～



継続的に安全性を確認し、安全性に関する情報を提供していきます。

新型コロナワクチンの承認に際しては、数万人規模の比較試験(臨床試験)等で、接種後に重大な副反応がないことを確認しています。承認後も継続的に安全性を確認するため、アナフィラキシーや医師が予防接種との関連を疑う重篤な症状が発生した場合は、法に基づき報告を受け、専門家が評価します。こうした報告の中には、ワクチン接種後の持病悪化・死亡のように、ワクチンとの因果関係が直ちに評価できない事例も含まれますが、幅広く収集し、評価を行うこととしています。



新型コロナワクチンは、全額公費(無料)で受けられます。

外国人も含め、接種の対象となるすべての国民が、全額公費(無料)で受けられます。

受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない方に差別的な扱いをしないようにしましょう。



速やかな接種に政府を挙げて取り組みます。

6月末までに高齢者の2回分の量を自治体に供給し、7月末を念頭に希望する高齢者が2回の接種を終えられるよう、政府を挙げて取り組んでまいります。高齢者の接種の見通しがついた市区町村から、基礎疾患をお持ちの方を含めて、広く一般の方々にも接種を開始します。



厚生労働省新型コロナワクチンコールセンター

0120-761770

※ 電話番号のお掛け間違いにご注意ください。

受付時間

9時00分～21時00分
(土日・祝日も実施)

